

Rev. bryol. 1932. p. 168.

本種ハ初メ *R. japonica* 又ハ *R. latifolia* ノ種名ノ通知ヲ受ケタモノデ予ガ櫻井氏ニ送ツタモノモ此ノ何レカデアツタと思フ。兎モ角モ新種トシテ送ツタコトハ確實デアルガ前例通りニ氏ノ新種トシテ發表サレタモノデアル。其後ニ D 氏カラ前記ノ種名ニ訂正サレ發表サレタノデアル。

*Oxyrhynchium Sasaokae* (BRETH.) SAK. p. 745 = *Rhynchostegium Sasaokae*

BROTH. n. sp. = *R. pallifolium* (MITT.) JAEG. det. DIXON.

本種ノ間違ヒハ可ナリニ興味ガアル。然シ今ハ多クヲ書カヌコトニスル。

*Entodon plagiothecioides* SAK. p. 500 (no. 548) = *E. plagiothecioides* BROTH. n. sp. (未發表)

本種ノ所命ハ先輩ヲ無視シタ様ニモ思ハザルヲ得ナイ。殊ニ飯柴氏ニ依リテモ既に發表サレテアルノデ (フロラ、第三十六號——昭和六年八月號) 今更ラ櫻井氏ノ author ノ必要ハ如何ナモノカト考ヘル。勿論、羅甸文デ發表サレタ功績ハアルガ *Brachythecium decurrentifolium* BROTH. in litt. (no. 545, p. 381) ト發表サレタモノモ有ルコトデアルカラ新種トシテヨリモヨリ以上ニ奥床シク嬉シク思ハレタコトデアラウ。

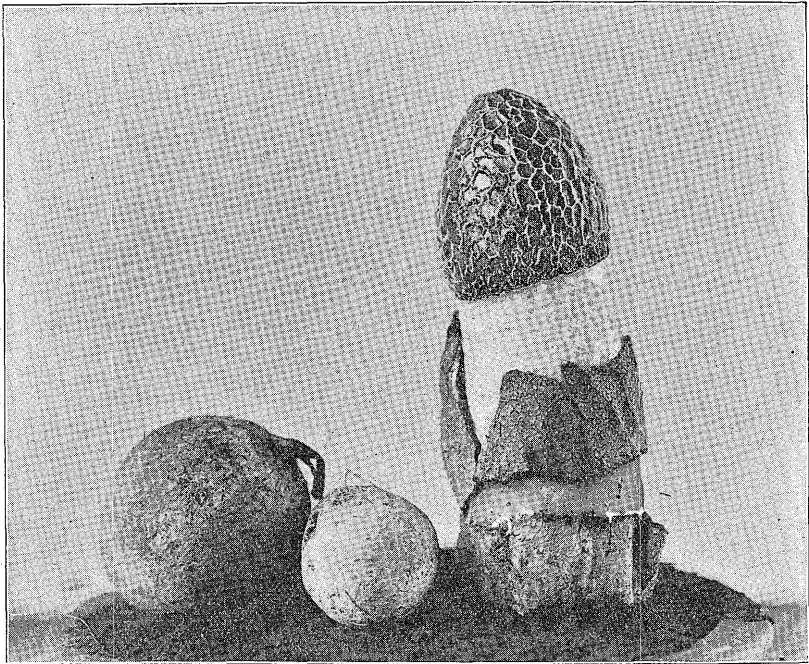
尙ホ最近ノ通信ニ依レバ櫻井氏ノ前記以外ノ新種中ニモ訂正サルベキモノガ相當ニアルヲシク、近ク Dr. I. THERIOT 又ハ Dr. DIXON 等ニ依リ發表サル、筈デアル。妄罪多謝。

## きぬがさたけノ生長ニ就テ

野 口 六 也

Rokuya NOGUCHI: On the growth of *Dictyophora phalloidea* DESV.

純白ノ美シイまんと (Indusium) ヲ着飾ツタきぬがさたけ (*Dictyophora phalloidea* DESV.) ハソノ濃艶ナ體姿、速カナ生長、屍人ノニホヒト云ハレル其惡臭、ソレニモ拘ラズ支那料理ノ食品トシテ頗ル尊重サレテ居ル事ナドデ通俗的ニ又學術上ニ種々ナ興味ヲ我々ニ懷カシメテ居ル。ソシテカ、ル幾多ノ題目ハ從來屢々新聞雑誌ノ紙面ヲ賑ハシタ事デアツタ。筆者ハ昨年本菌ノ生長ノ甚ダ迅速ナルヲ具體的ニ示ス様ナ珍ラシイ寫真ヲ手ニ入レタノデ以下之等ヲ御紹介スル。



第 1 圖 (本文参照) 野口撮影

本誌ニ掲ゲタ寫眞ハ 5 枚デアルガ 第 1 圖ハ昭和 5 年 10 月末ニ芝ノ某氏ヨリ筆者宛ニ送付サレタ菌ヲ撮ツタモノデ、他ノ 4 圖ハ昨夏 7 月東大農學部林學教室ノ岩出亥之助氏ガ小石川ノ芭蕉庵デ採集シタ菌蕾ヲ教室內デ發育セシメ氏自ラ撮影サレタモノデアル。之等ノ寫眞ニヨツテ第 1 圖中央ノ極ク若い菌蕾カラ左方ニアル成熟シタ菌蕾 (外面ハ淡紫紅色)、以下順次子實體ガ伸長シテ完熟スルマデノ經過ヲヨク理解スル事ガ出來ル。

サテ本菌ノ生長スル速度デアルガ、嘗テ筆者ガ測定 (甚ダ不充分デハアルガ) シタ處ニヨルト、

午前 9 時 30 分……體長 5cm	午後 12 時 10 分……體長 13cm
同 9 時 45 分……" 8cm	同 2 時 10 分……" 16cm
同 10 時 35 分……" 11cm	同 4 時 00 分……" 19cm

即チ夜半皮殻ヲ破ツタ菌體ハ午前 9 時半ヨリ午後 4 時ニ至ル 6 時間半ニ 14cm ダケ伸ビタ事ニナル。尙まんと (Indusium) ハ 10 時 35 分ノ頃蓋ノ下縁內ヨリ現ハレ始メ、午後 2 時 10 分ニハ 6cm 迄伸展シタ。

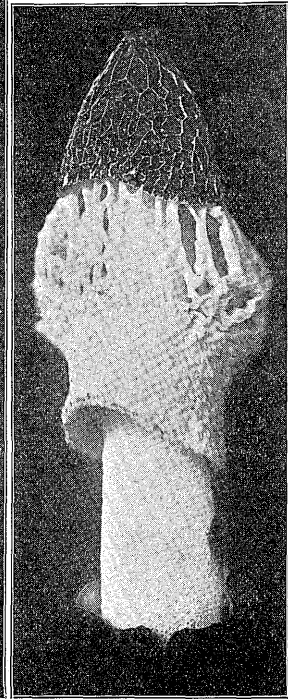
岩出氏ノ寫眞ハ午前 8 時ヨリ 11 時ノ間ニ 4 回撮サレタノデアアルガ、同氏ノ記録ニヨルト「前日ノ午後 6 時ニハ菌蕾ノ儘デアツクガ翌朝 8 時ニハ已ニ體長 19cm. ニ迄伸長シテ居タ (第 2 圖)。午前 10 時ニハ全長 22.5cm. トナリ (第 3 圖) 11 時ニハ子實體ハ完成サレタ。」ト云フ事デアル。最後ノ高サハ不明デアアルガ本菌ノ體長ハ 20cm. 内外デアアルカラ第 3 圖以後ハ殆ドソノ生長ハ止ツタニ違ナイ。即チ 2-3 時間ニ 3cm. 程伸ビタ事ニナル。まんとノ伸ビ方ハ莖ヨリ遙カニ速デ、正確ナ數字ハ得ラレナイガ之等ハ寫眞デモ大體ノ見當ハツク。岩出氏ノ寫眞ハ本文ニ掲ゲタ他ニ尙一枚アリ、ソレハ 10 時 40 分ニ



第 2 圖 午前 8 時體長 19cm.  
(岩出氏撮影)



第 3 圖 午前 10 時  
體長 22.5cm. (岩出氏撮影)



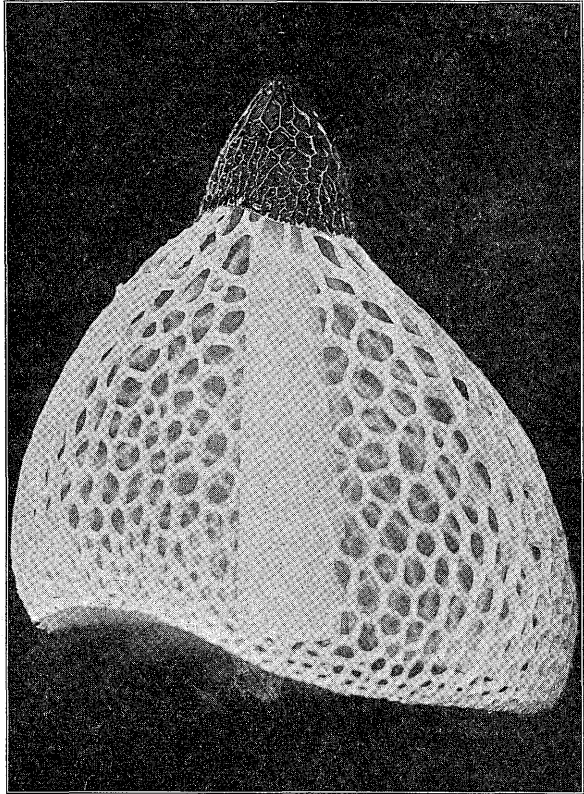
第 4 圖 午前 10 時 30 分  
(岩出氏撮影)

撮影シタモノデ、まんとハ殆ド第 5 圖即チ 11 時ノモノト大差ナイ位ニ開展シ下縁部ノ網目ノミガ未ダ閉ヂテ居ル程度デアル。從ツテ 10 時 30 分

乃至 40 分ノ 10 分間ニ凡ソ 3-4cm. 位伸ビタ事ニナリ、1 分間ノ開展速度ハ凡ソ 3-4mm. ニ當ル。

以上記シタ處ハ正確ナ數字ニ基イテ居ナイガ、之ニヨツテきぬがさたけノ伸長ガ如何ニ素晴シイカト云ウ事ダケハ充分理解出來ル。筆者ハ嘗テ本菌ヲ寫生シタ處ガ、暫クノ間ニ體形ガ全ク變リ、再度描キ直サネバナラナカツタ經驗ヲ持ツテ居ル。

今ヲ距ル 30 餘年前 ALFRED MÖLLER 氏ハ本菌ノ生長ニツイテ詳細ナ觀測ヲ行ヒ、ソノ結果ヲ其著 *Brazilische Pilzblumen* (1895) ニ報告シタ。コノ中ニ本菌ノまんとガ觀測中ノ或ル數分間ニ分速 5mm. ノ割合デ伸ビタトアルガ、爾來本菌ノまんとハ植物界中最モ速カナ生長ヲナスモノトシテ多クノ植物學書ニ引用サレテ居ル。コ、デ注



第 5 圖 完成セル子實體午前 11 時  
(岩田亥之助氏撮影)

意スベキハコノ記錄ハまんと(Indusium)ノ保有スルモノデ莖ノ生長デハナイ。本邦ノ植物書中屢々單ニきぬがさたけノ生長速度 1 分間 5mm. トアルハ誤リデ、之ハ例ヘバこむぎノ花絲ノ生長ト書クベキヲ單ニこむぎノ生長トスル様ナモノデアル。少クトモコノ生長速度ガ植物界中第一等ニ位スルト云ウ重要性ヲ有スル以上、コノ誤リハ嚴密ニ訂正サルベキデアル。

莖ニ比シテまんとノ生長ガ遙カニ速カナノハ、其ノ構造ガ然ラシメルモノデアル。一體本菌ノ莖及まんとハ恰モ海綿ノ如ク無數ノ蜂窩狀ノ間隙ヲ有シテ居

ル。菌體が菌蕾ノ被膜ヲ破ツテ伸長スル際ニハ實質ソノモノノ増大ハ恐ラク零ニ近ク、主トシテ之等ノ間隙——コノ間隙ハ菌蕾内ニアル時ハ零ニ近イ——ノ容積ガ増大スルノデアル。故ニ莖ニ比シテソノ間隙ノ遙カニ大キイまんとノ方が、ソノホグレ方ガ即チ伸ビ方ガ大キイワケデアル。實際まんとノ伸ビ方ヲ見ルト漸進的デハナクテ、網目ガホグレ度ニパラリパラリト階段的ニ開展シテ行クノデアル。コノ事ハ MÖLLER 氏モ觀察シテ居ル處デアルガ、コノ點カラ見ルト斯カル伸展ヲ眞ニ生長ト云ツテヨイカ如何カ甚シク疑ハシクナル。コノ處今少シ精密ナ觀察ヲ必要トスルガ若シ之ヲ生長ト云ツテヨイナラバ斷續的ニ開展スルまんとノ生長速度ハ上記 1 分間 5mm. 以上ノ快速ヲ示ス瞬間ガナケレバナラナイ。然シコノ點ハシバラクオキ今回ハ只岩出氏ノ美事ナル寫眞ヲ御紹介スル事ノミヲ以テコノ稿ヲ終ヘル。

## WAINIO ガ鑑定シタ本邦産地衣類ニ就テ (其三)

佐 藤 正 己

M. M. SATÔ: Notes on some Japanese Lichens determined  
by Dr. EDV. A. WAINIO III.

かむりごけ屬 *Pilophoron* TH. FR.

1. かむりごけ *Pilophoron japonicum* A. ZAHLBR., Catal. Lich., Bd. IV, 1926, p. 432; et in Bot. Mag. (Tokyo), Vol. XLI, 1927, p. 337.

Syn. *Pilophoron clavatum* NYL., Lich. Japon., 1890, p. 17 (non *Pilophorus clavatus* TH. FR.).

*Pilophorus Hallii* (TUCK.) WAIN., in Bot. Mag. (Tokyo), Vol. XXXV, 1921, p. 59, quoad plantarum ex Japonia. YASUDA, Flecht., Japan, 1925, p. 32, Pl. VI, fig. 5.

Type locality.—Itigô-me, Mt. Huzi, Japan Proper.

地衣體ハ火成岩ニ固着シ、顆粒狀デ暗灰綠色ヲ呈シ、散生スル。子器柄

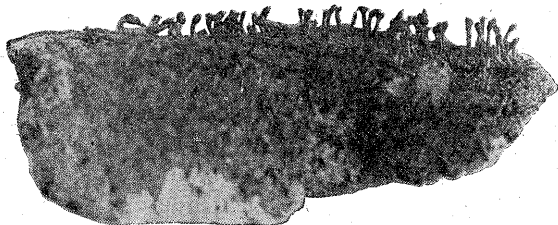


Fig. 12. かむりごけ *Pilophoron japonicum*  
A. ZAHLBR. ×1/1.